

氏名	岡 田 正比呂
学位(専攻分野)	博 士(医 学)
学位授与番号	博 乙 第 2439 号
学位授与の日付	平成 4 年 6 月 30 日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Difference of Rejection between Heart and Heart-Lung Transplantation in Rats : Flowcytometric Analysis of Graft Infiltrating Lymphocyte Subsets (心移植・心肺移植における拒絶反応の相異：フローサイトメトリーによる移植臓器への浸潤リンパ球サブセットの解析)
論文審査委員	教授 折田 薫三 教授 中山 睿一 教授 赤木 忠厚

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

心移植・心肺移植における拒絶反応の相違を比較検討するために、移植臓器に浸潤したリンパ球サブセットのフローサイトメトリーによる解析を中心として、両者を比較検討した。方法：DonorにFischerラット，recipientにLewisラットを用い，腹腔内心移植・腹腔内心肺移植モデルにて，免疫抑制剤を投与しない急性期群とサイクロスポリンを投与する慢性期群を作成し，病理組織像，抹梢血・移植心・移植肺からリンパ球を分離し，そのサブセット(W3/25,OX6,OX8,OX39)を検討した。結果：移植心の生着は急性期群では，心肺移植において生着の延長を認めたが，慢性期群では，いずれも長期生着を認めた。グラフト拒絶反応は，急性期群でsevereであり，慢性期群ではmildであった。抹梢血リンパ球サブセットはいずれにおいても有意差はなかった。移植臓器に浸潤したリンパ球サブセットは，急性期群・慢性期群ともに，W3/25において，心移植単独のものが心肺移植に比べて有意に上昇し，OX8においては，心肺移植の有意の上昇を認めた。結語：心移植と心肺移植における拒絶反応には，異なるリンパ球サブセット比率を示すことから，異なる免疫現象，特に抑制性T制帽が関与している可能性が示唆された。

なお，本論文は共著論文であり，共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究者は、心あるいは心肺を異所性同種移植し拒絶の状態を検討している。移植後無処置下では、心肺移植群で有意に心の生着が延長し、サイクロスポリン投与下では両群とも70日以上生着している。末梢血、移植臓器より分離したリンパ球のフローサイトメトリーから、心肺移植時には suppressor T cellの誘導される可能性のあることを示唆している。

以上は臓器移植上、興味ある知見であり、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格のあることを認める。